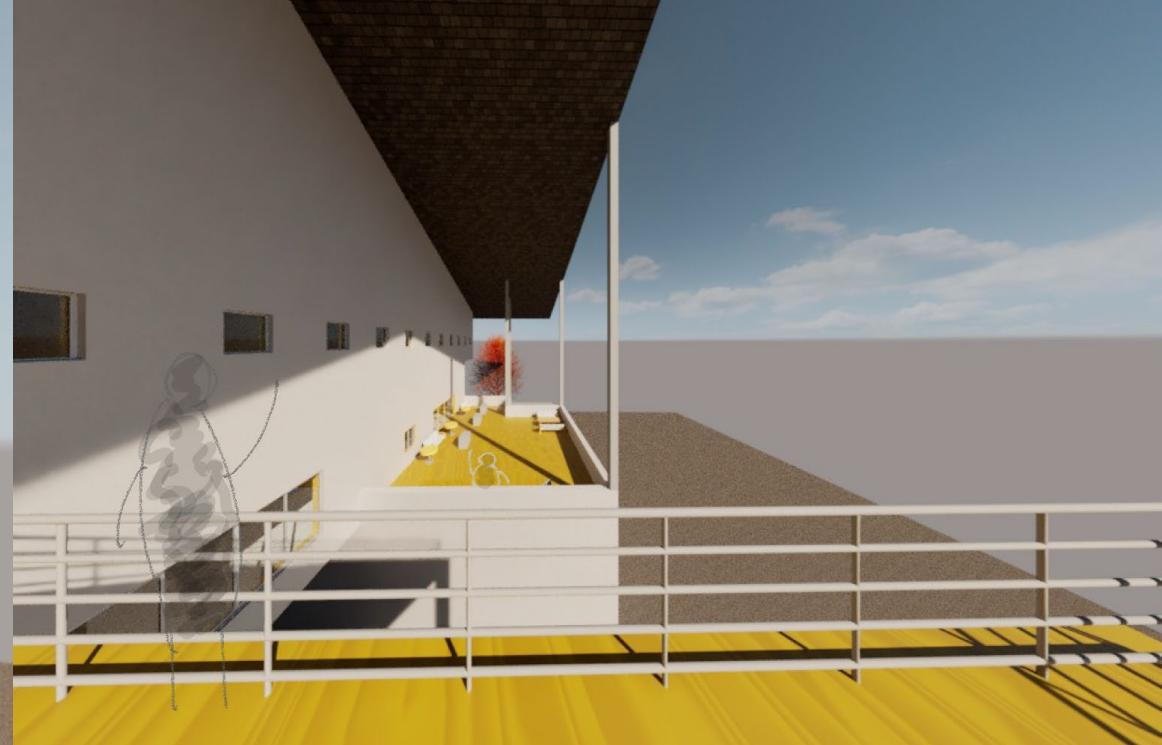


「ヒトと知が共に魅せる街」 ～点/線/間で紡ぐ風景



<敷地情報>

- ・ 計画地:茨城県つくば市
吾妻2丁目6(北2駐車場)
- ・ 敷地面積:6000㎡
- ・ 法規:商業地域、建ぺい率80%、
容積率400%

<作品情報>

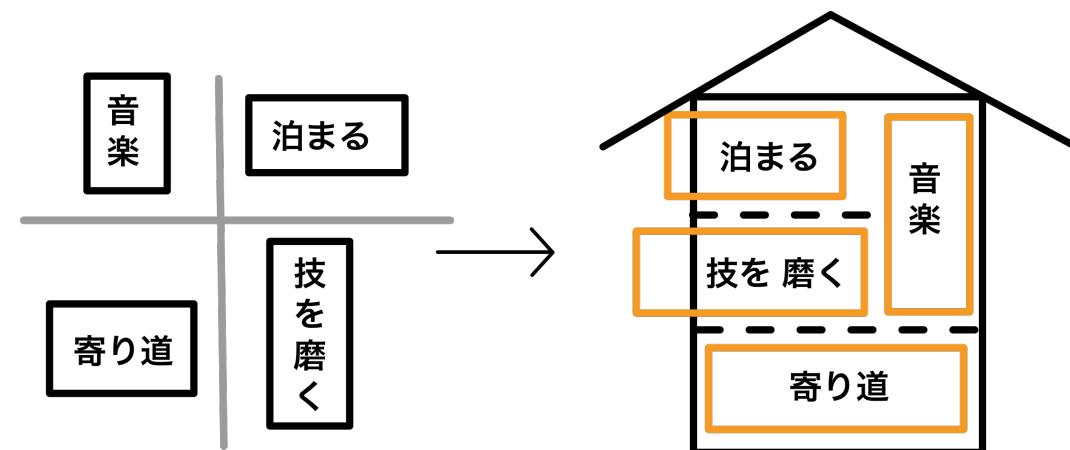
1階:2854.6㎡	建ぺい率:47.6%
2階:2473㎡	容積率:131.3%
3階:2548.3㎡	規模:地上3階建て
	構造:RC造、木造

1. 社会背景

現在、つくば市ではTX沿線開発や外国人の増加、つくばきらり別邸・イーアスつくば・つくばエキスポセンター・トナリエつくば・つくばセンタービル・つくば駅・つくば中央図書館・小学校など既存施設をめぐる観光と日常の利用動線が形成されている。

県内で最も進んだインフラ・沿線開発により地域住民のライフラインはさらに利便性を増す一方で、**研究都市としての発展と整備が進む中で観光・日常・学びの動線は分断され、都市体験は断片化している。**過疎地域に隣接し県内外の移動の通過点となりつつある現況において、街の“らしさ”を伝え、**利用者が滞在したくなる価値を生み出す場**が求められている。そこで本計画では、筑波技術大学のイノベーションキャンパスを、都市の動線を編み直し、**観光と日常をつなぐ”街のハブ”**として再定義する。建築が都市の断片をつなぎ、つくばの多様な魅力を利用者体験をもとに、通過点から“滞在の街”へと変化させることを目指した。

2. ダイアグラム



本計画は、都市に散在していた「交流・学び・休息」という利用者体験を一つの建築に束ね、学びの連続性を再構築するものである。

- 1階⇒自転車ユーザーを巻き込み、市のレンタルサイクルの利用選択肢の一つに**交流・発信の場**を。
- 2階⇒オフィス型教室と廊下(学生と教員のつながりの場)、音楽ホールを備え、**知のインプット/アウトプット**が循環する学びの中心層
- 3階⇒学生やビジターが心身を整える「忘・休・寝」の層として、ファーストキャビン型の宿泊空間を配置した



